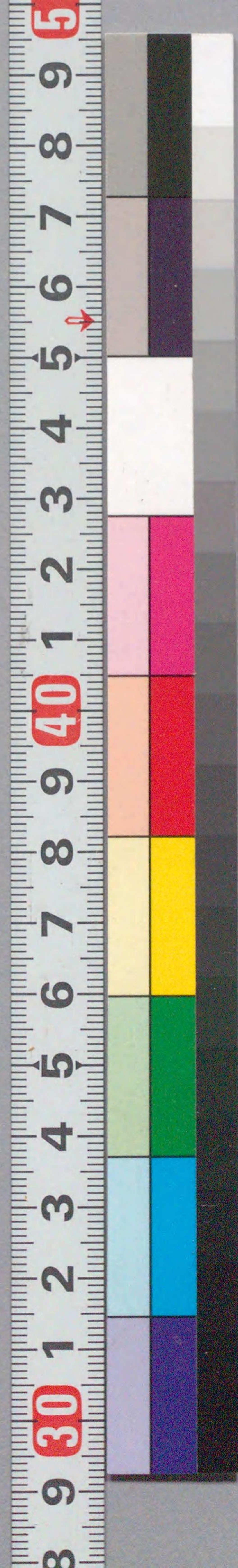


207
728



前さ不り盛な長が私し記き有あ茲ら不し亦も景け清き漂ま泊つ日つ記き有あ或
 曰い狼ろ損そ也や奚ん也や對たい曰い金きん毘ひ羅ら様やま江え遠とほ入い録ろく林りんのに正
 語ご不し曰い君きん子しハハ泰たい而に不し驕けう奢しゃ平へい家け久く以い英えい雄ゆう豪ごう
 傑たけとと呼よ也や景け清きもも土つちのの宰さい不し入いてて土つち龍りゆう不し等とう底てい以い後ご世せい
 胸むね鬼おに成なり者ものをを指さ景け清きとと云いすす道みち遥とほ院いんのの御おん歌うた不し
 加かけけききとと池いけ水みづをを形かたち西にし北きた抄しやう秋あきのの月つき名なもも虫むし乃なり中ちゆう廣くわう沢たく池いけ
 何なにががああんんとと一ひと名なもも虫むしの中ちゆう不し廣くわう澤たく乃なり池いけ水みづももああららりりと
 其その方かたがが顔かほをを摸もくく見みええ同どうレレイイツツツツ刑けい加かカカ清きよききささで
 るる西にしとと北きた秋あきのの月つき一ひと名なもも虫むしの中ちゆう不し廣くわう澤たくのの池いけ百ひゃく姓せいの
 七しち兵へい衛ゑいとと中ちゆう且かつ形かたち授じゆ加かささ種しゆてておおななををささききすすババ千せんヤヤニニヤヤシ
 文化二世春
 内新母禱
 ののああめめええん
 ののフフニニトトレレ





けんぢおつの師志中
 源氏の代とるれが
 めぢちてあれやまし
 何を志くこらようらふと
 中々の王で
 ぢまううたなうし
 らでや竹のこがさ
 つりをりるどと
 らしりるどと
 おぢく又いらるまぎ
 のふーやを袖やの
 らぎをけりて
 とせんとてあぢる
 日をおけりける

大目方へふきよりの
 るれはひさねです
 正行て
 できは三助
 の中くすかりで
 おのうけまよと
 とんぐあぢりの
 むきと
 いちのぢる
 とのふと
 さるやう
 めぢちや



平家三年三月廿日
 壽永三年三月廿日
 八日
 中々の王で
 ぢまううたなうし
 らでや竹のこがさ
 つりをりるどと
 らしりるどと
 おぢく又いらるまぎ
 のふーやを袖やの
 らぎをけりて
 とせんとてあぢる
 日をおけりける











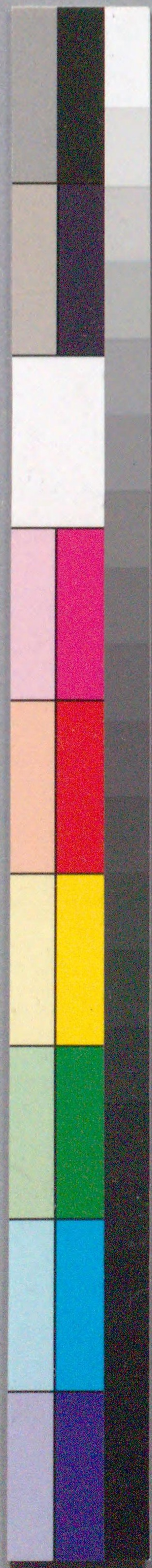


Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a diary entry or commentary related to the illustration. The text is written in a cursive style.

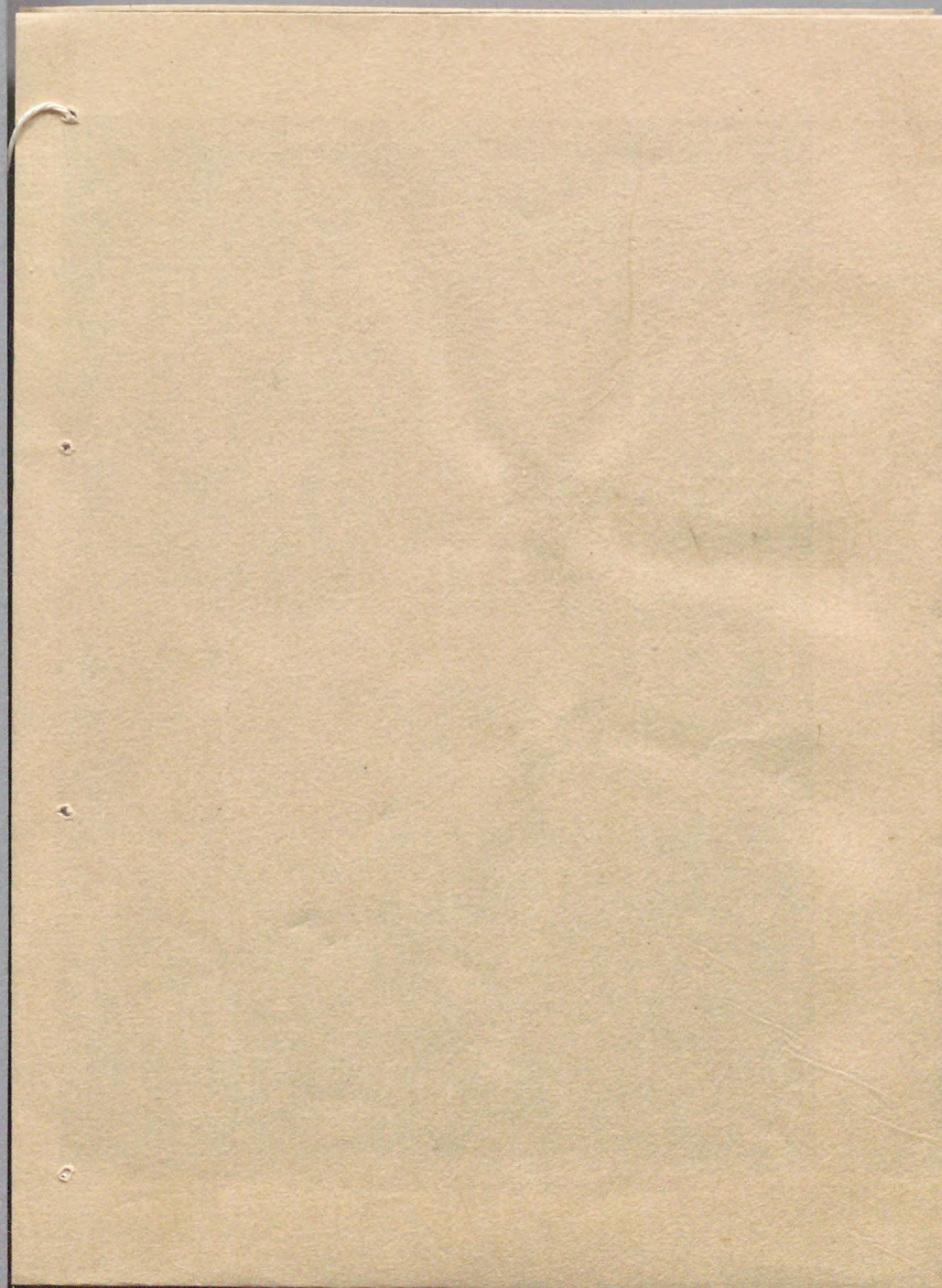


Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a diary entry or commentary related to the illustration. The text is written in a cursive style.





国立国会図書館 景清漂泊日記：3巻 207-728



ガラス使用

